

水系ケイカルシーラー

近年、消防法による塗料の貯蔵、取り扱いに関する規制や、労働安全衛生法、大気汚染防止のためのVOC規制（溶剤規制）もあって、溶剤の使用量を出来るだけ減らしていくことが、今日の塗料業界の課題となっています。一方、無機建材の分野では、ケイカル板の利用度が急激に増加し、より比重の軽いものが続々開発され、塗料の付着に難問を投げかけています。

従来、ケイカル板のシーラーには溶剤型のごく限られた樹脂系のものが使用されてきましたが、水性のシーラーでは、未だ十分な付着性は得られませんでした。弊社では、各種塗料の水系化をコンセプトとして開発を進めてまいりましたが、このたび、ケイカル板用の水系シーラーを開発致しました。

水系ケイカルシーラーは、浸透性に優れた天然物質と、ケイカル板に親和性の良いアクリル樹脂を組み合わせた水系に分散させたもので、殆どの塗料を上塗りすることが出来ます。

● 一般性状

| 項目 | 性状 | 項目 | 性状 |
|-------------|-----------|-------|---|
| 塗料の状態 | 半透明の水系分散液 | 塗膜の状態 | ケイカル板に塗布した場合、僅かに艶を残すのみで殆ど吸い込まれる。 |
| 密度 (20℃) | 1.01~1.03 | 上塗付着性 | エマルジョンペイント、合成樹脂調合ペイント、アクリル樹脂塗料を上塗りし、乾燥後テープテストをしたときはかれを生じない。 |
| PH | 8.0±0.5 | | |
| 乾燥時間 | 30分 | | |

● 水系ケイカルシーラーの塗装

1. 塗装法

刷毛、ローラー、スプレー塗装の何れも可能です。

2. 希釈

水で30~50%うすめてから使用して下さい。(原液のまま塗装しないで下さい)

3. 塗付量

ケイカル板は比重でシーラーの吸い込み状態が異なります。

比重が1.0以上のケイカル板 …………… 原液換算で80~100g/m²

比重が0.8前後のケイカル板 …………… 原液換算で120~150g/m²

4. 塗装上の注意事項

- 必ず水でうすめてから塗装して下さい。
- ケイカル板は、吸い込みが激しいので塗り返しは効きませんが、上記の塗付量を参考にしてたっぷり塗り込んで下さい。
- 雨天等の影響によりケイカル板に水分が含まれている状態のとき水系ケイカルシーラーを塗装すると、シーラーの吸い込みが悪くなり上塗り塗膜の付着性を阻害する恐れがあります。ケイカル板は十分に乾燥した状態で塗装して下さい。
- 雨天時、冬期は塗装後、シーラーが一見乾いた状態に見えても水分が十分に飛びきっていない場合があります。シーラーの水分が十分に乾燥しないまま上塗りを施工しますと付着性が悪くなります。水分を完全に乾燥させてから上塗りして下さい。

● 荷姿

15kg 石油缶詰

